

令和2年度第2回浜松市森林・林業未来構想会議 報告書

- 1 日時 令和2年8月7日（金）15:00～17:00
- 2 場所 浜松総合庁舎 701、702 会議室
- 3 参加者 24名（委員17名、オブザーバー2名、事務局4名／別添資料のとおり）
- 4 概要

○ 令和3年度以降の予算に反映させるため、森林環境譲与税活用事業のより具体的な施策、事業について、各分野でグループを分け協議。

【主な事業提案】

- ・ 既存事業の拡充として、林道・作業道等の改修・舗装等は必要。また、新型コロナウイルス感染症対策としての経済対策も強化してほしい。
- ・ 獣害対策のため、狩猟者の育成が必要（人材育成に活用してほしい）。
- ・ 予算配分を見ると木材需要拡大分野が少ない。「木を使う」ことへの予算をもっと検討してほしい。
- ・ 住宅関係において、天竜材の家百年住居る事業で施主への助成はあるが、施工・設計に制度がないため、インセンティブなどを設けてほしい。
- ・ 一定規模の非住宅建築物に対し、木材利用を義務化できないか。
- ・ 200年後の森林づくりのビジョンが必要。また、それを市民が共有するため、様々な人が集まり、語り合うことのできる「場」が必要。

5 内容

（1）あいさつ／袴田雄三

- 全国的及び県内でも新型コロナウイルス感染拡大が広がり、収束の兆しがまったく見えず、予断を許さない状況。また、7月の豪雨・長雨により、林業・木材産業も多大な被害が出ており、木材流通量の減少等、今後影響の長期化が懸念されている。
- 本日の会議は、1回目の意見等を踏まえ、令和3年度以降の予算に反映させるためのより具体的な施策、事業について御提案いただきたい。
- 「森林・林業」、「木材利用」、「環境教育」の各分野にグループ分けし、分科会形式で協議し、より踏み込んだ議論となるようにしたい。
- 皆様方には、中・長期的及び俯瞰的な視点を持って、森林環境譲与税をこれからの森林・林業振興のために、どう具体的に活用すべきかなどの意見をいただきたい。

（2）議題

- ① 浜松市森林・林業関係事業について／事務局
※ 資料1、2を基に林業振興課で実施している事業を説明
- ② 事業提案について

※ グループワーク及び発表を実施

【 A：森林・林業（発表内容） 】

- 譲与税を何に使うかは「個人」「事業体（森林組合・製材所等）」によって異なり、まとめることができなかったが、主な2つを発表する。
- 1：既存事業の拡充／林道・作業道等の改修・舗装等の基盤整備・強化の拡充は必要。また、新型コロナウイルス感染症対策としての経済対策も強化してほしい。
- 2：新規事業の創出
 - ・ 狩猟者の育成／植栽木の獣害は深刻。防護柵等の購入・設置等の助成制度はあるが、人材育成に活用してほしい。
 - ・ 新規就業者への林地配分／林業関係は、若くして独立することが難しい。これは、活動するフィールド確保が難しいため。新しい森林管理システムの意向調査でギブアップした所有者の森林を新規就業者が管理するようなシステムができればいい。

(その他 GW での意見)

- ・ コロナ禍で天然林への入込みが増加（密回避のため）。広葉樹のニーズは根強くある。森の多様性は重要。
- ・ 200年の森づくりも大切だが、コロナ禍において今日明日の経営をどうするかも重要。
- ・ 短期的には獣害（シカの食害）対策が必要。獣害削減のため、ハンター志望の若手は潜在的にあるが、資格取得や装備品購入の資金がない。そこを支援できれば若手ハンターが増える。
- ・ 「強い山」づくりが必要。強い山とは災害に強く、いかなる時も丸太が出せるという意味。雨が降ったから丸太を出せないは理由にならない。
- ・ 「強い山＝美しい山＝強い道」というようにつながっている。基盤整備にはゾーニングも必要。基盤強化には、強い道づくりを「学ぶ」ことから始める必要がある。それが道づくりにつながっていく。
- ・ 所有者不明地の境界確定が困難。そのような森林を市で買い上げできないか。
- ・ 施業の ICT 化を進める必要がある。ドローン活用等、一部で進められているが、本地域はまだまだ進んでいない。
- ・ 林業の本来のサイクルに戻したい（春に植林、夏に下刈り、秋・冬に伐採という）。原点回帰の必要性あり。
- ・ 森林・林業分野でビジネスとして起業するような人材が出てほしい。

【 B：木材利用（発表内容） 】

- 市の予算配分を見ると木材需要拡大分野が少ないように感じる。「木を使う」ことへの予算をもっと検討してほしい。また、需要側の意見

をもっと聞いて予算編成をしてほしい。

- 木材利用は、「住宅」「非住宅」に分かれる。
 - 1：住宅／エンドユーザー（施主）は補助制度あり（天竜材の家百年住居る事業）。施工（工務店）、設計には制度がないため、インセンティブなどを設けてほしい。
 - 2：非住宅／非常にニーズがあると思う。一定規模の非住宅には木材利用を義務化できないか。
 - CLT もある程度の材積活用を見込める工法だが、本地域では完結できない（製造できず他地域への発注になる）。どういう技術分野に補助するか検討することが必要。
 - 川上から川下の関係者が連携・協働するために、具体的な情報共有の手法を検討するプロジェクトを実施できないか。
 - 建設業界全体では、鉄骨造や RC 造に比して木造を選択肢に持つ設計施工関係者が少ない。建設工事フローにおいて、木材利用のコンセンサスを得る決定打がないのが現状。
 - 市は FSC を強化すべき。SDGs と関連付け、認知度向上を図るべき。マクドナルド、スターバックスの関連紙製品には、FSC マークが付いており、こういった企業と連携した周知活動が有効。
 - 住宅、非住宅分野で具体的な水平連携活動を行い、関係者が共有する仕組みづくりを行うために、具体的な物件を募って実施しながら検討するプロジェクトが有意義ではないか。
- （その他 GW での意見）
- ・ それぞれの受給者のニーズに応じた住宅・非住宅への補助制度の拡充（見直しを含め）は必要。
 - ・ 天竜材の価格が高価なイメージは、建築関係者の共通認識かもしれない。建築士も天竜材（材の性能）について認識不足の面がある。そのため連携できる仕組みができないか。
 - ・ 林業分野だけでなく建築やデザインなどに関わる学生との連携事業も考えていただきたい。

【 C：環境教育（発表内容） 】

- 200 年後の森林づくりのビジョンが必要。例えば、2222 年の天竜の森林のイメージがあり、市民がこれを共有することが必要。
- また、このビジョンを作成するための「場」が必要。
- この「場」は、木材に詳しい人やそうでない人など、様々な人が集まり、語り合うことのできる「場」であることが必要。
- 更に、その「場」で森林の整備ができる人の育成や FSC の共有等ができるとうい。
- “林業”ではなく“森林業”という観点でのビジョンを作成し、共有

すべき。

(その他 GW 及び後日送付された意見)

- ・ 非効率に森をつくることも大切。あまり木を伐らず、林業関係者がじっくり生活できる仕組みづくりが必要。
- ・ 提案型の補助事業ができないか。関係者が集う「場」をつくることや様々な人が学べる講座等の開催には、提案型が望ましい。
- ・ 「林業歴史館」のようなミュージアム的な場所が必要。来館者が天竜林業を見ることができ、調べることができるような施設が必要。
- ・ 200年後の森林づくりのビジョンを共有するため、CGで200年後の森林のイメージを作れないか。次世代に夢のあるものを残したい。
- ・ m³単価から離れたほうが良い。木材を住宅等ではなく、小物やアートに活用できれば、今とは違った見方になる。
- ・ 200年後の森林環境をイメージするための森林交流の場づくりとして、「浜松森林環境 2222」の開催。「山で森林交流合宿」「街で森林交流市場」と2分野に分ける。「山で森林交流合宿」は既存事業の拡充。「街で森林交流市場」は、遠鉄跡地での木材市場開催。DIY材料や木製品販売の販売、フリーマーケットやミニ講座開催等。

(4) その他

- ① 今後のスケジュールについて／事務局
 - 次回は次の日程で開催（譲与税活用計画案の検討）
 - ・ 日時 9月11日（金）10時から
 - ・ 場所 クリエイト浜松2階ホール

令和2年度第2回浜松市森林・林業未来構想会議 会場の様子

